

夢と消えた「家産五萬圓造成貯金」



資料提供 竹中 敏美
 國枝 浩
 文 國枝 浩

過日、生涯送るのに2,000万円必要とか。その心配無用の為の議論が新聞やテレビで出ましたが、そんな不安は昔も有った様で、その為に積金をしておこうと考える人もあって、大正14年10月に本郷池田信用販売組合が預かり元になる本郷池田家産造成同盟会が結成されました。

20年で最終出金は11円25銭で終わっています。これは敗戦で失ってしまったからでしょう。試しに20年間振り込んだ1口額は13,093円79銭です。何れも夢の5万円は消えてしまいました。

条文を見ると1口50円を毎月出金して、各自の元利合計5万円になる迄、据置貯金し、予定年数103年とし、利息変動あれば、これを伸縮するものとするがあります。第1回目は53円50銭になっています。実はこの証書は出資者14人で1口、2口、3口、5口、10口があつて、計20口になって銅筒に入っ

預け金はどうなったか聞いていませぬが、同様に失ったものに国債や保険金(貯蓄、報国債券、徴兵保険等)いろいろありました。

て配られています。銅筒入りだったから気が付かなかつたのです。偶然両家に残っていて発表した訳ですが、両方共昭和18年と

郷土史の会・研究発表会

【テーマ】「本郷村・石高の実態をさぐる
 ～たくみに生きた百姓たち～」

【発表者】 牧村 弘毅 氏

【とき】 8月7日(水) 9時30分より

【ところ】 中央公民館1階 第3会議室

会員以外の方もぜひご参加ください

協力 郷土史の会